

あぐいめ～る新川

第93号(令和3年12月発行)
富山県新川農林振興センター
〒938-0801 黒部市荻生3200
(TEL) 担い手支援課 (0765) 52-0268
(0765) 52-5192
農業普及課 (0765) 52-0094
(0765) 52-0945
(FAX) (0765) 52-3115

新川 農業の未来を担う人 ～第38回～ 広瀬 琢磨 氏 (入善町高畠)

～ 地域の園芸をけん引する若き農業者 ～

県外から入善町にUターンした広瀬琢磨さんは、当初、農業法人に勤め、主穀作の作業に従事していました。しかし、次第に自ら園芸品目に取り組みたいとの思いが強くなり、農業法人を退職し、野菜経営の開始に向けた研修を受けることを決意されました。

その後、とやま農業未来カレッジでの1年間の研修を終え、さらに1年間にわたり、富山市八ヶ山地区の野菜生産者のもとで施設及び露地の野菜栽培を実習し、技術習得に努めました。現在、入善町内の施設園芸農家のハウスと法人組織の農地を借り、きゅうり・トマトの施設栽培やカリフラワー栽培(露地)に取り組んでいます。



～ 新川きゅうりの売上を1億円に ～

広瀬さんは新川きゅうり出荷組合の一員として12アールのハウスできゅうりを生産しており、将来的には整枝方法や選別作業の省力化による規模拡大を思案されています。さらに、新川きゅうり産地全体の年間売上を、令和2年実績の23,000千円程度から1億円にまで引き上げることが広瀬さんの目標です。また、県内のカリフラワーの大規模生産はしばらく途絶えていましたが、生産者の助言を活かしながらかい見事に復活させ、周囲の農業者を巻き込みながら栽培面積を拡大しています。



広瀬さんは、日々前向きに営農に取り組んでおり、今後も入善町の農業をけん引する若き農業者の一人として、一層の活躍が期待されます。

- 目次 P. 2、3・・・令和3年産水稻の生育経過を振り返って ～コシヒカリを中心に～
P. 4～7・・・園芸作物栽培のポイント ～冬春編～
P. 8～10・・・気象災害対策(4回シリーズ): 12～2月雪害対策
P. 11・・・米価下落時に踏ん張るための6つの提案!
P. 12・・・耳より情報・・・農業経営者の皆さんへ♪♪

令和3年産水稻の生育経過を振り返って ～コシヒカリを中心に～

富山県の作況指数(10月25日現在)は99の「**平年並み**」となった中で、新川地区のうるち玄米1等比率は10月末現在で96.9% (表1) と、県目標 (90%以上) を達成しました。

本年は、田植後から気象変動の大きい中での生育となり、特に登熟期間中の低温寡照によって中生以降の品種では収量が大きく減少しました。(図1)

一方、品質については、乳・心白粒などの白未熟粒の発生が少なく、全体的に高品質な米を確保することができました。この要因としては、①適切な「**中干し**」による地耐力の向上等が図られ、倒伏が少なかったこと、②斑点米カメムシ類の発生密度を高めないよう適切な管理が行われたこと、③登熟初期において著しい高温にならなかったことが考えられます。

令和3年産水稻の重点対策とセンター管内の調査は実績については以下のとおりです。

区分	市町別内訳					(参考) 2年産
	3年産	朝日町	入善町	黒部市	魚津市	
新川管内	96.9	99.0	97.5	94.6	96.9	93.9

表1 うるち玄米1等比率 (10月末現在)

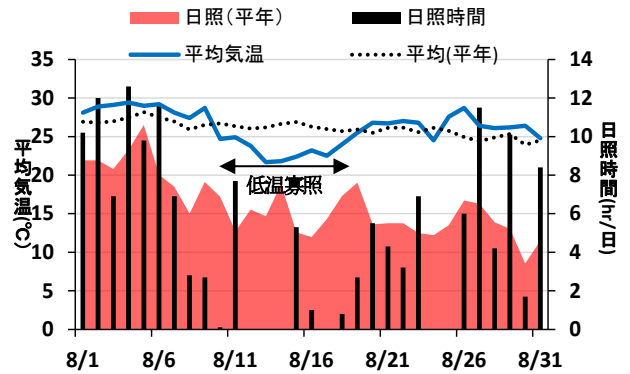


図1 登熟期間中(8月)の気象 (うおづアメダス)

重点技術対策：穂数型稲への誘導

⇒【令和3年実績】目標の㎡当たり穂数(400本/㎡)は確保できなかった



70株植えがほぼ定着(R3調査時の平均栽植密度68株/坪)した一方で、5月15日以降の強風や日照不足・降雨の影響により初期生育の確保が遅れ、6月の高温多照や短い梅雨(6/18~7/14)により茎数の回復が見られたものの、その後、高次分げつを中心に淘汰が進んだことから、穂数は平年よりやや少なくなりました(図2)。

葉色は、高温多照で推移した7月は平年に比べ淡くなり、出穂1週間前も平年をやや下回りましたが、穂揃期にはほぼ平年並みとなりました(図3)。

このため、収量構成要素を平年と比べると、穂数は360本/㎡と少なく、一穂粒数は83.8粒と多く、㎡当たり着粒数は30,200粒と過剰気味となったことに加え、出穂後30日間の日照時間が少なかったことにより、登熟歩合が77.4%と極めて低くなりました。その結果、目標とする収量を確保することができませんでした(図4)。

次年度は、初期生育の確保を行い、引き続き「**穂数型稲**」を目指すことが重要です。

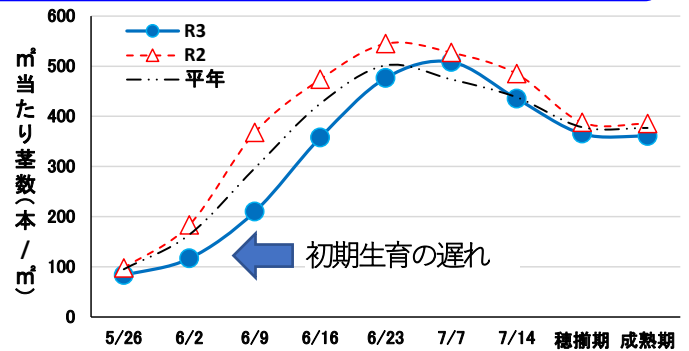


図2 茎数の推移 (新川調査ほ)

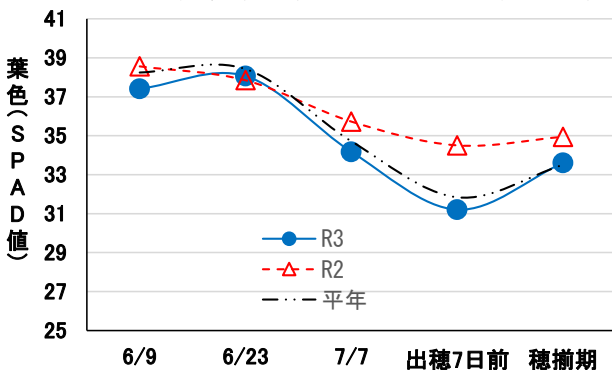


図3 葉色の推移 (新川調査ほ)

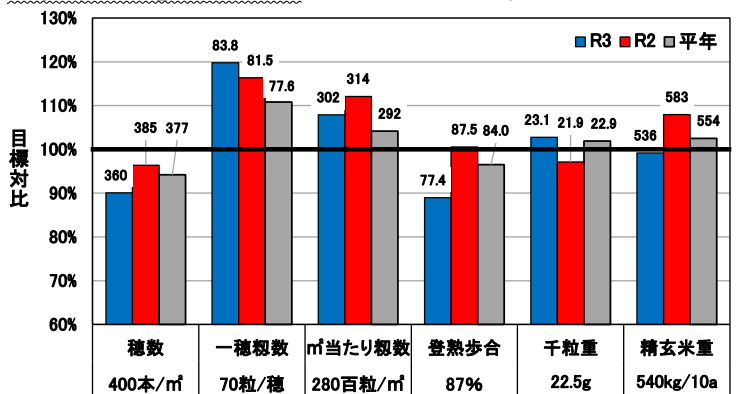


図4 収量構成要素の目標対比 (数字は実数)

重点技術対策：「根づくり」の推進

⇒ 【令和3年実績】中干しは概ね適切に実施された



中干しは、田植え後4週間を目安に、生育に応じて開始されました。6月10日以降にまとまった降雨があったものの、中干し期間中の雨天日は少なく、概ね適切に実施されたことにより、根の伸長が促進され、幼穂形成期前までに目標とする土壌硬度を概ね確保することができました（図5）。

一方、強すぎる「中干し」や「飽水管理」の不足から急激に葉色が低下したほ場や、除草剤の効果不足により後発雑草が目立ったほ場が見受けられました。

令和4年産水稻においても引き続き、「適期（田植え後4週間以内）の中干し開始を徹底し、「根づくり」に努める」ことが重要です。

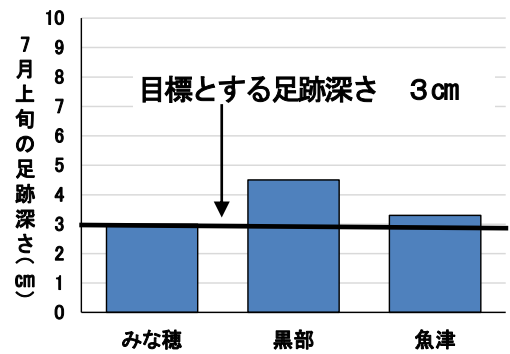


図5 管内JAの土壌硬度の確保状況（新川調査ほ）

重点技術対策：カメムシ類による斑点米の発生防止

⇒ 【令和3年実績】格下げ要因の第1位が「部分カメ」・「部分着色」

いすんちやくしよく

1等比率は高い結果となったものの、管内すべての市町における品質格下げ要因の第1位は、斑点米カメムシ等による「部分カメ」や黒点症状米（くさび米）による「部分着色」でした。

1 斑点米カメムシについて

昨年の反省を踏まえ、カメムシの発生状況に応じて防除等を実施したことにより、被害拡大防止が図られたものの、一部地域において多くの発生が見られました。

【斑点米カメムシ被害が拡大した要因と次年度対策】

- <要因>
- ①畦畔等の雑草管理が不十分で、アカヒゲホソミドリカスミカメ等の発生密度が高く、本田への侵入が多かった。
 - ②水田内に雑草が多く残った。（ヒエ・ホタルイなど）
 - ③山手地域においてクモヘリカメムシ（若幼齢虫から成虫まで）が多数確認された。



アカヒゲホソミドリカスミカメ



ヒエの発生が多い



クモヘリカメムシ

- <次年度対策>
- 「ケイ酸質資材」を施用し、割粃の発生を軽減する。
 - 斑点米カメムシ類の住処となる雑草地の草刈りや水田内の除草を徹底する。
 - 発生モニタリングを行い、発生状況に応じた適期適切な薬剤防除を行う。

2 黒点症状米（くさび米）について

出穂前後の高温と登熟期間の低温寡照の気象変動の影響により、一部の地域においては生理障害により発生したと推察される「くさび米」が多く見られました。

出穂後1～5日の平均気温と出穂後11～15日の平均気温差が大きい場合、玄米の腹部を起点に発生が高まります。



黒点症状米（くさび米）

園芸作物栽培のポイント ～冬春編～

経営複合化の有望品目の「白ねぎ」「小粒いちじく」「旧盆切り花(小ギク、シンテッポウユリ)」について令和4年産に向けた冬春作業のポイントを紹介します。

1 白ねぎ ～は種・育苗編～

(1) は種時期と必要資材

1) は種時期と品種

は種は、定植時期と収穫時期を考慮し、計画的に行いましょう。また、作型に合わせた品種を選定することも重要です。

表1 作型と品種例

作型	は種期	育苗期間	定植期	収穫期	品種(例)
春まき夏秋どり	1月下旬～ 3月中旬	70～60日	3月下旬～ 5月中旬	8月上旬～ 9月中旬	夏山一本太 夏扇パワー
春まき秋冬どり	3月中旬～ 4月上旬	60～40日	5月中旬～ 6月上旬	9月中旬～ 12月中旬	夏扇4号 関羽一本太

2) 必要資材(10a 当たり)

は種に必要な資材は、種子、チェーンポット、水稲用育苗箱、敷紙、育苗培土、は種器具(チェーンポットの展開板等)です。

作型に応じてチェーンポット1穴当たりのは種量を調整するため(春まき夏秋どり:2粒または2.5粒播き、秋冬どり:2.5粒または3粒播き)、10a 当たりの必要な種子数は、約33,000粒～50,000粒と幅があります。

表2 必要資材(10a 当たり)

資材名	数量
種子	2粒播き : 約33,000粒
	2.5粒播き : 約41,000粒
	3粒播き : 約50,000粒
水稲用育苗箱	62箱
チェーンポット	62冊
敷紙(ネットマール等)	62枚
育苗培土	30L詰13袋

※条間1.2m、枕地なしの場合

(2) は種手順



①展開串でチェーンポットを広げ、展開板にセットします。



②チェーンポットに土を詰め、ブラシ等で軽く叩き、均一に土が詰まっていることを確認します。



③敷紙を育苗箱に入れ、土を詰めたチェーンポットにかぶせます。



④展開板と育苗箱を重ねたままひっくり返し、展開板だけを取ります。



⑤は種器を用いては種します。すべてのポットに種子が入っていることを確認します。



⑥ポットの高さまで覆土します。育苗箱の端まで土を詰めます。

覆土後は、かん水後の余分な水が育苗箱の底から抜けやすいように、垂木や直管パイプの上に育苗箱を置き、一箱当たり 1.5L の水をかん水します。その後 4～5 日間は、発芽の安定や初期生育確保のため、気温 20℃ に設定した育苗器に入れます。

(3) 育苗管理 (ハウス内)

1) 育苗初期～中期 (出芽後～1.5 葉期まで)

育苗箱が直接地面に接しないようにするため、育苗箱をハウス内へ搬入する前に、垂木や直管パイプを並べておきます (写真1)。

育苗器から出した苗をハウス内に並べてから、2～3 日間は不織布をかけます。さらに、低温期 (3 月まで) はトンネル被覆をします (写真2)。

ハウス内の温度は、昼間は 20～25℃ (30℃ 以上は×)、夜間は 10℃ (5℃ 以下は×) を目安に管理します。晴天時はトンネル内が高温になりやすいので、トンネルを開放します。

かん水は、床土が乾いてきたら、朝に実施します。



写真1 直管パイプを用いた例



写真2 トンネル被覆の様子

2) 育苗後期 (1.5 葉期～定植直前)

本葉の 2 枚目が 1 枚目の本葉の半分の長さになった頃、定植に備え、昼夜ハウスサイドを全開にし、冷たい外気に苗を慣れさせる「苗の順化」を行います。ただし、低温注意報が発令された場合は、夜間はハウスサイドを閉めまず。10 日以上の順化を行ってから定植しましょう。

また、は種後 45 日頃から、5 日間隔で低濃度の液肥 (野菜の達人 1000 倍等) をかん注します。これにより、苗の活力が維持され、定植後の生育が旺盛になります。

定植適期の苗は「草丈 20cm 程度」「葉数 2～3 枚」「葉鞘径 (太さ) 2～3mm」です。定植時に葉切りすると根の伸長が抑制されるため、草丈が長く定植作業に支障がある場合を除き、極力葉切りを行わないようにします。

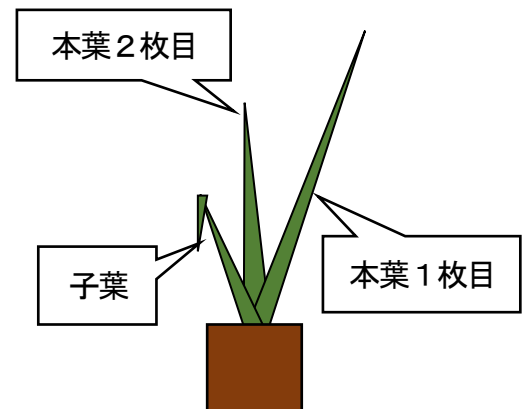


図1 順化を始める時期の苗の姿

2 小粒いちじく（水稲育苗ハウス利用の根域制限栽培）～せん定～

小粒いちじくは、挿し穂後に伸長した新梢を翌年から主枝として利用します。せん定方法は、新梢の伸長程度により異なりますので注意してください。

(1) 主枝のせん定

新梢が十分伸長した主枝（新梢長 1.5m以上）は、基部から 1 m（目標新梢長）付近の充実した上向き芽で切り返します（写真 3 ①）。

新梢長 1.0～1.2m 程度の新梢は、1 m 付近で切り返すと、翌年、新梢（結果枝）伸長が緩慢となる恐れがあるため、先端から 1/3～1/4 付近の充実した外向き～横向きの芽で切り返します。（写真 4 ②）。

新梢長 1.0m 以下の新梢は、目標主枝長 1 m を確保するため、先端から 1/2～1/3 付近の充実した外向き～横向きの芽で切り返します（写真 4 ③）。



写真3 新梢が十分伸長した主枝のせん定

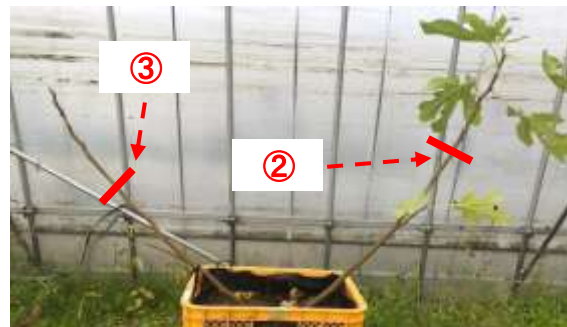


写真4 新梢の伸長がやや緩慢な主枝（右側）と緩慢な主枝（左側）のせん定

(2) 結果母枝となる新梢のせん定

今年、主枝上から発生した新梢（副梢）は、翌年の結果枝のタネ枝（結果母枝）として利用します。

①結果母枝は、主枝上に約 20 cm 間隔に配置されるよう適宜間引きます（写真 5 赤マーク）。

②間引きは、弱小な枝、極端に太い枝を中心に行い、基部からきれいに切除します。

③結果母枝となる新梢は、基部から 1～2 節目の芽を残して切り詰めます（写真 5 青マーク）。

(3) 不要な枝（樹形を乱す強い枝）の切除

主幹部（主枝分岐部より基部側）や主枝基部付近から発生した強勢な枝は切除します（写真 5 黒マーク）。

切り口からの枯れ込みや病原菌の侵入を防ぐため、せん定終了後、速やかに保護殺菌剤を塗布します。

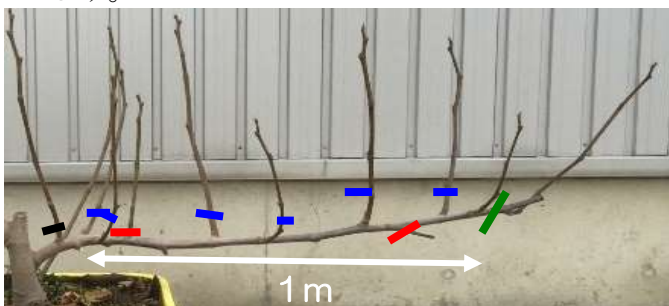


写真5 結果母枝となる新梢と不要な枝のせん定

緑マーク：主枝の「切り戻し」
赤マーク：結果母枝となる新梢の「間引き」
青マーク：結果母枝となる新梢の「切り詰め」
黒マーク：不要な枝の「切除」

3 旧盆向け切り花(小ギク・シンテッポウユリ)

12月～3月に行う小ギクの親株管理・採穂、及び、シンテッポウユリのは種・育苗のポイントは以下のとおりです。

(1) 小ギク ～親株管理・採穂のポイント～

1) 低温遭遇・初期かん水(～1月下旬)

親木活着後は、平均気温10℃以下で60日間の低温に十分遭遇させ、控えめのかん水を行い、乾燥気味に管理します。

2) 親木の切除(～1月上旬)(写真6,7)

冬至芽の発生を確認し、親木を地際で切除します。

3) ハウス保温・かん水・トンネル換気(1月下旬～)

- ・1月下旬から、親株のトンネル保温を開始し2～3月は10～12℃、4月は20℃を目標に温度管理します。
- ・ハウス内温度の上昇に伴い、かん水量を増やしますが、白さび病が発生しないようトンネル内の換気を行います。

4) 冬至芽の摘心(1月下旬～3月上旬)(写真8)

冬至芽は生葉を3～5枚残して摘心します。冬至芽の摘心は目標草丈20cm以下とし、採穂30日前までに最終摘心を行います。

5) 採穂(3月上旬～)(写真9)

採穂は、手で容易に折れる柔らかい部位で行いますが、茎が太い穂は腐り易く発根しにくいので採らないようにしましょう。採取した穂は、穂長5cm程度で、展開葉を3枚残して下葉を除去し調製します。

6) 穂冷蔵(3月上旬～)(写真10)

- ・穂が曲がらないよう紙コップに50本程度の穂を立て入れ、保存容器ごとポリエチレンフィルム等で包み、2℃の保冷库では30日間程度の保管が可能です。
- ・保冷库の温度が高いと穂の萎れや曲がりが起こり易くなります。

7) 挿し穂(4月上旬～)

ほ場への定植予定日の21日前に挿し穂を行います。

(2) シンテッポウユリ ～は種・育苗のポイント～

1) 種子による育苗(12月～1月上旬)

200穴のセルトレイに培土(ガッチリくん(ねぎ用)など)を詰め、かん水の後、種子を1粒ずつは種し、種子が見えなくなる程度に薄く覆土します。

2) 育苗管理(は種～4月25日頃)

- ・は種後は乾燥防止と保温のため有孔ポリ等で被覆します。
- ・気温が25～30℃以上になると発芽率が低下します。
- ・発芽揃いで被覆を除去しますが、引き続き高さ60cm程度のビニールトンネルで保温します。
- ・日中の換気は20～25℃で行い、乾燥しないように適宜かん水します。
- ・発芽後は、液肥(野菜の達人:500～1,000倍)を、初期は週1回、本葉2枚以上で週2回施用します。

3) 定植(4月25日頃)(写真11)

4月25日頃に、苗の鱗片葉5～7枚で定植します。



写真6 親木切除前



写真7 親木切除後



写真8 冬至芽の摘心



写真9 穂の調整



写真10 穂の冷蔵



写真11 定植時の苗

気象災害対策（4回シリーズ）：12～2月雪害対策

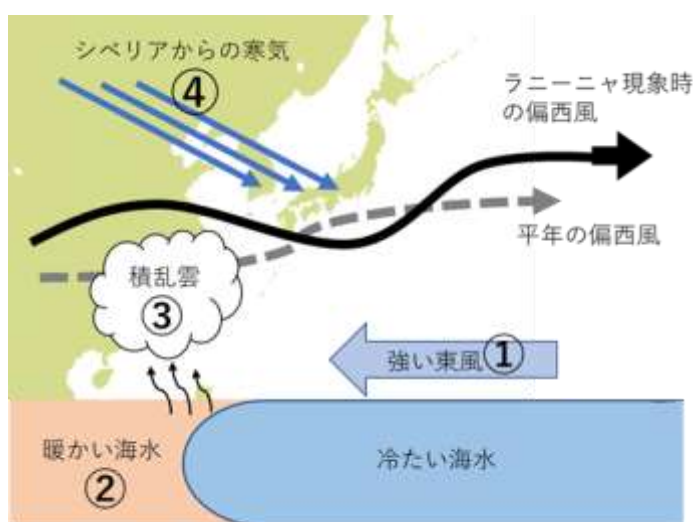
昨冬は、記録的な大雪の影響でハウス倒壊や農作物の損傷などが全国で発生し、農業被害額は203億円にのぼりました。こまめな気象情報の確認や、早めに対策を講じるなど、万全な準備を行って冬本番を迎えましょう。

1 ラニーニャ現象による大雪の影響

気象庁は11月10日に今年もラニーニャ現象が発生した可能性があることを発表しました。ラニーニャ現象の冬は、平年よりも冬型の気圧配置が強まり、寒気が流れ込みやすくなることがあり、西日本の日本海側を中心に寒気の影響を強く受け、大雪になりやすいとされています。昨年に引き続き、今冬も大雪に注意が必要です。

【ラニーニャ現象のメカニズム】

- ① 赤道付近で通常よりも強い東風が吹く。
- ② 西側の暖かい海水が東へ移動できなくなる。
- ③ 通常よりも西側で積乱雲が発生することで、偏西風が北に押し上げられ、日本付近で南に向かって大きく蛇行する。
- ④ 偏西風の南下によって、シベリアからの寒気が通常よりも流れ込みやすくなる。日本海に帯状の雪雲が発生すると、平野部でも局地的に短時間の大雪となる可能性が高くなる。



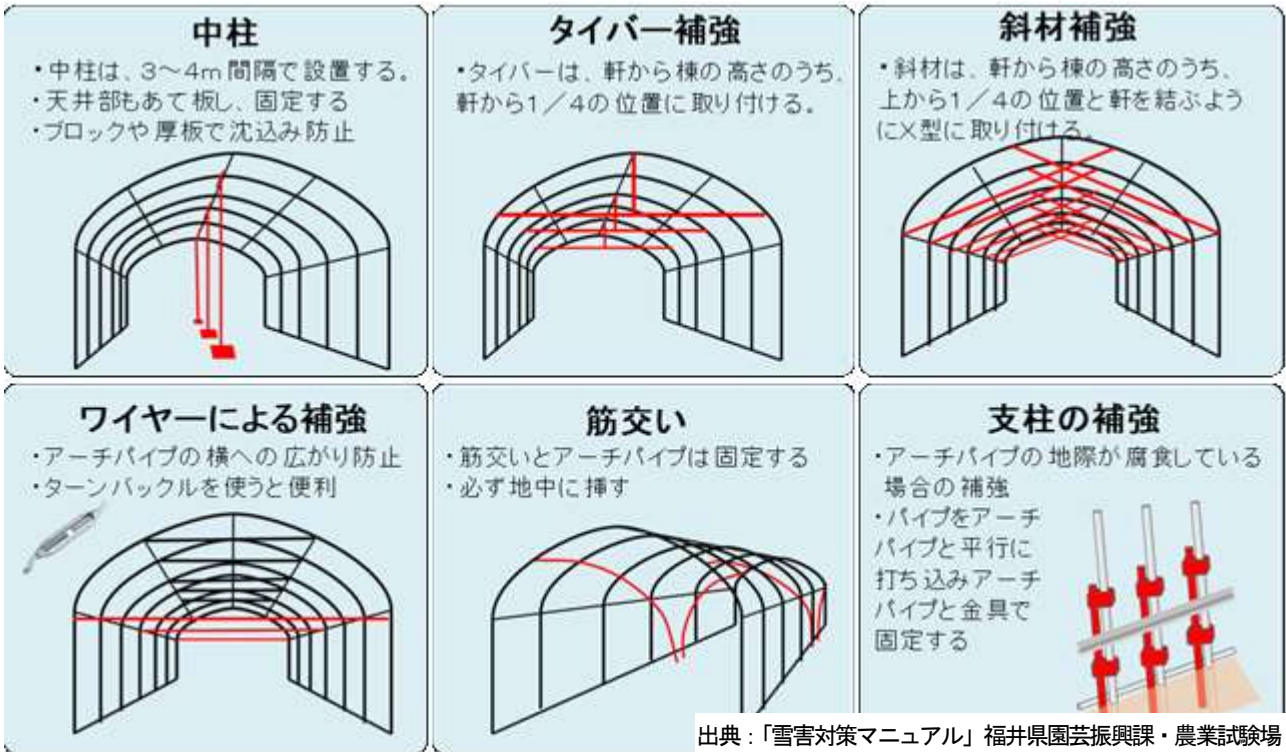
2 雪害を防止するための技術対策

(1) ハウス等農業施設の管理対策

【降雪前の事前対策】

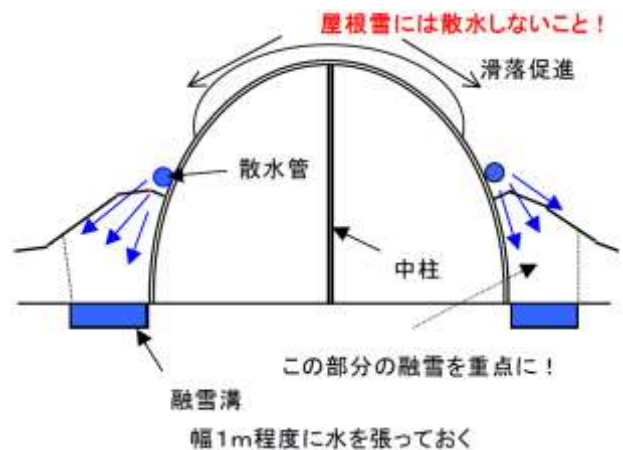
- 耐雪性の無い水稻育苗用ハウス等では、事前にビニールなどの被覆資材を除去しておきます。なお、急な大雪で、事前対策が間に合わない場合は、必要に応じて被覆資材を切断除去し、積雪によるパイプの折れや倒壊を防ぎましょう。
- 耐雪型ハウスであっても、雪が滑落しやすいように、ハウスに外張りのネット・遮光資材がある場合は取り除きましょう。
- 積雪により荷重が集中する箇所は次ページの〈ハウスの補強方法〉を参考にハウスを補強しましょう。
- 基礎部が腐食している場合は、予めパイプの交換や補強資材を利用して基礎を強化しましょう。
- 加温設備のあるハウスでは、暖房装置が使用できるよう燃油残量や装置本体及び附帯装置（内張りカーテン等）の動作の確認をしておきましょう。また、ハウスの被覆資材の破れや隙間の点検、補修等を行い、保温性の向上に努めましょう。

<ハウスの補強方法>



出典：「雪害対策マニュアル」福井県園芸振興課・農業試験場

- ハウス側面の融雪を促進するため、肩部には融雪装置（散水管）を設置しましょう。また、融雪効果を高めるため、できる所はハウス横に幅1m程度の浅い融雪溝を設けておきましょう。
- 側面の積雪や屋根から滑落した雪が、速やかに融雪できるように融雪溝に水を張っておきましょう。なお、融雪水が多くなるとハウス内に浸水するおそれがあるため、融雪溝の水位が上がりすぎないように排水路につなぐなどの排水対策を行いましょう。



出典：「雪害対策マニュアル」福井県園芸振興課・農業試験場

【降雪時・積雪後の対策】

- 積雪前に内部被覆の内張りカーテンを開放した上で、できればハウス内温度4～5℃となるよう暖房し、屋根雪を滑り落ちやすくさせましょう。
 - 加温設備がない場合は、ハウスを密閉して気密性を高め室温上昇により、屋根雪が滑落しやすくなるようにしましょう。
 - 散水による融雪・除雪は、降り始めの早い段階から、両側面を均等に行いましょう。屋根雪には散水しないでください。
 - 施設全体又はハウスの軒高を超える積雪があった場合は、大きな被害が懸念されるため、骨組が完全に雪に埋没しないうちに除雪を行いましょう。屋根部まで積雪した場合は、重みが片寄らないようハウス両側を均等に除雪しましょう。
- パイプハウス等を損壊させる危険度は、ハウスの肩部に多く堆雪したり、側部から積もった雪の端口が肩部に乗りかかった状態の時の最も高く、次いで、気温が高く滑落しにくい雪などが降つ

た際に屋根部に堆雪した時、次いで、側面部に堆雪の圧力がかかった時です。ハウスの堆雪の状態を見極めて危険度の高い部分からの除雪を優先させましょう。

- 融雪・除雪が追いつかず、最新の気象情報による積雪深の予報がハウスの耐雪強度を大きく上回ると想定される場合は、事前に被覆資材を切断除去しましょう。
- 降雪により施設の被害が発生したときは、安全に十分配慮した上で、できる限り早期に施設の破損、倒壊状況等の点検を行いましょ。なお、ハウス内に作物がある場合は、早急に修復を行い室温の確保に努め、低温による栽培作物の生育障害・枯死等の被害を防止しましょ。
- 施設倒壊のおそれがなくなった後、農舎などの屋根・軒下やハウス間の積雪を、次の降雪に備えて直ちに除雪しましょ。
- 除雪機を使用する場合は、ハウス周囲の障害物を取り除き、通路を確保しましょ。
- 散水管の使用後は水を抜き、凍結による破損を防止しましょ。

(2) 果樹の管理対策

- 収穫期を迎えているりんごは、速やかに収穫を行いましょ。
- 防風網、防鳥網は降雪前までに必ず除去しましょ。
- 幼木やりんごのわい化栽培樹では、支柱を立て、枝を縄等で結束しましょ。
- 立木仕立ての成木では、大枝単位の粗せん定を実施するとともに、冠雪で裂けそうな枝には支柱を入れ、樹体を補強しましょ。
- 棚仕立ての木では、誘引されている枝は全て縄を切り、必ず粗せん定を実施しましょ。棚には中柱を補充し、さらに主枝の分岐部には支柱を入れて、裂傷や損傷を防止しましょ。
- 幼木や苗木では、主幹部を稲わらや白色反射マルチシート等で被覆する等、凍害防止に努めましょ。

3 農業保険への加入

自然災害による農作物や農業用ハウスの被害等への備えとして、農業共済制度や収入保険制度といった公的な保険や、民間保険会社等の保険に加入しましょ。雪害が発生した場合には、甚大な被害となるおそれがあります。雪害から経営を守るためには、保険を利用して、備えることも重要です。農業共済組合が取り扱っている園芸施設共済ではハウス本体のほか、暖房器具などの附帯施設や、損害を受けた施設の撤去費用も補償の対象に追加できます。詳しくは、新川地域農業共済センター（Tel：0765-72-0377）へお問い合わせください。

4 気象情報の収集

週間天気予報や大雪警報・注意報など、気象状況をこまめに確認するなどして、早めの対策を心がけましょ。また、6時間先の降雪量や雪の深さを確認できる「今後の雪」なども活用し、万全な準備の上で安全に補強・除雪作業を行いましょ。

○気象庁HP：ホーム>防災情報>気象防災__今後の雪

※本文は、農林水産省「暴風雪や大雪に備えるための予防減防災情報」、福井県園芸振興課・農業試験場「雪害対策マニュアル」をもとに新川農林振興センターが作成

米価下落時に踏ん張るための6つの提案！

今年度の大きな米価下落を受け、今後の資金繰りや売上への影響は避けられないと考えられます。当面は融資制度の活用などにより、緊急的に資金を確保することが考えられますが、経営を持続していくためには、さらなる収益力の向上やコスト削減が不可欠です。

さて、この正念場を乗り切るために今できることはないでしょうか？ まずは、下記の提案をたたき台にして自らの経営を点検し、改善することから始めましょう。

提案1 今ある作目の収量・品質を高め、売상을向上させよう！

新たな作目や部門を導入するための投資には、大きなリスクが生じます。まずは、水稻はもちろんのこと、複合として取り組んでいる大麦・大豆や園芸品目の今年度の栽培管理を振り返り、改善できることはないか点検してみましょう。

また、現在の資本装備で規模拡大の余地はないか検討しましょう。

提案2 作業効率を高め、コストを下げよう！

今年は、燃油高騰が経営の圧迫に追い打ちをかけ、最低賃金も年々上昇しています。機械作業や施設稼働の効率を高め、高騰している動力光熱費の削減と労働時間の短縮に努めましょう。そのためには、今冬に作業の段取りを見直し、計画を綿密に練り直していきましょう。

提案3 機械や施設に係る経費を削減しよう！

支出において、機械や施設にかかる経費は大きなウェイトを占めています。簡単な修繕は自ら行う、機械を丁寧に扱い長持ちさせるなどして、修繕費や機械の更新にかかる支出を減らしましょう。

また、機械を更新するときは、能力や装備など最低限必要なものかどうか、借入金や未払金の状況を確認しながら、再度検討しましょう。

提案4 整理・整頓し、ムダをなくそう！

肥料や農薬など資材の在庫を点検し、次期の資材を購入するときには必要な量だけを購入しムダがでないようにしましょう。また、動線を意識しながら施設内を整理・整頓し、作業の効率を高めましょう。

提案5 農作業事故やトラブルをなくそう！

作業者の安全対策を徹底し、農作業事故は絶対に起こしてはいけません。加えて、事故やトラブルは経営にとって大きな出費となり、ひとたび起こればその影響は計り知れません。

施設や作業の中に危険な箇所がないか点検し、事故やトラブルをなくしましょう。

提案6 地域で話し合ってみよう！

地域で農業を継続し、担い手のみなさんがさらに集積を進めるために、地代や畦畔及び用排水路の管理などの負担をどうしたらよいかなどについて、担い手同士や農業委員、地権者のみなさんと改めて話し合ってみましょう。

また、園芸品目に取り組む農業者や新規就農者に農作業や転作を委託するなど、担い手同士で連携できることがないかなども検討してみましょう。

その1 いよいよ決算！～パソコン簿記相談会・研修会の開催案内～

パソコン簿記個別相談会 ～パソコン簿記に取り組んでいる方はこちら～

各市町の担い手総合支援協議会では、下記の日程で相談会を計画しています。パソコン簿記の入力や決算処理などでわからないところの相談に対応します。

1 日程及び会場

魚津市：令和4年1月27日(木)、2月15日(火)
9:00～12:00、13:00～16:00 魚津市役所

黒部市：令和4年1月18日(火)
10:00～12:00、13:00～16:00 黒部市役所

入善町・朝日町：令和4年2月4日(金)、3月4日(金)
10:00～12:00、13:00～16:00 JAみな穂本店(予定)

2 講師 トヤマデータセンター



初心者向けパソコン簿記講習会 ～これからパソコン簿記に取り組む方はこちら～

これからパソコン簿記を始めたい方に、ソリマチ農業簿記による仕訳入力や決算の仕方の講習会を計画しています。パソコン簿記をぜひ始めましょう。

1 日程及び会場

令和4年1月26日(水)、2月8日(火) 2日間
9:00～16:00 新川農林振興センター

2 講師 トヤマデータセンター



※パソコン簿記相談会・研修会の申し込みは農林振興センターまたは、各市町の担い手育成総合支援協議会(農政担当課)へ問い合わせください。(各市町からの案内も参照ください。)

その2 次年度経営に向けて専門家に相談を！～サポート事業の活用を～

今年度の反省や次年度の計画の検討に、専門家の派遣を活用してみませんか。

担い手の皆さんが抱える様々な経営課題を解決するため、税理士や中小企業診断士、社会保険労務士などの各種専門家を派遣し、経営発展に向けた支援を行います。

専門家への相談を希望される方は、農林振興センターまたは、各市町の担い手育成総合支援協議会(農政担当課)へお気軽にご相談ください。

＝具体的な相談例＝

- 経営改善のアドバイスや経営診断をしてもらいたい。
- 労働安全の講習会を開催したい。作業場の労働安全点検をしたい。
- 従業員を雇いたいが、雇用する場合の社会保険や求人の仕方を知りたい。
- 法人化や経営継承の方法について相談したい。

その3 とやまGAP推進大会のご案内

1 日時 令和4年1月13日(木) 13:30～15:35(受付13:00～)

2 場所 富山県農協会館8階ホール(富山市新総曲輪2番21号)

3 内容 講演「SDGsとGAPの密接な関係について」

講師 藤井 淳生氏 安心農業株式会社 代表取締役社長

※詳しくは別紙開催要領を参照ください。